

抗凝血薬療法手帳

ワルファリンK錠「NIG」



日医工株式会社

抗凝血薬療法

海外へ出かけることがある場合にも、この手帳を持参し、医療機関で診察、治療を受ける際には医師・薬剤師にこのページを提示して下さい。

あなたがワルファリンカリウム製剤で抗凝血薬療法を受けていることが英語で記載されています。薬局で薬を受け取る場合にも薬剤師へ提示して下さい。

I have been receiving anti-coagulant therapy with Warfarin K Tab. "NIG" (Warfarin potassium). When other medicines are concomitantly used with Warfarin potassium or undergone surgeries (including tooth extraction), every caution should be taken for fear of causing drug interactions and bleeding.

病名 _____ 血液型
ABO式 () 型
Rh () 型
氏名 _____ 生年月日
年 月 日生
〒 _____ 住所
TEL () _____

- 心房細動 深部静脈血栓症
人工弁置換術後（種類： _____）
その他（ _____）

- ・拮抗剤はビタミンKおよび乾燥濃縮人プロトロンビン複合体です。
- ・上記患者さんはワルファリンK錠「NIG」による抗凝血薬療法を施行中です。

年 月 日

医療機関名：

TEL () _____

主治医：

患者さんへの注意事項

あなたは抗凝血薬療法を受けています。
ワルファリンカリウム錠による最適の治療を受けるため、
及び出血の危険を避けるために、下記の注意事項を
厳守して下さい。

1. 本治療期間中は、定期的に受診し、 必ず主治医の指示通りに服用して下さい。

- ①あなたに最も適したワルファリンカリウム錠の量を
決める必要があります。
これは INR 検査*等の血液検査を定期的に行うこと
によって決められます。
- ②服用は必ず指示された量を服用して下さい。
毎日決まった時間に服用することをお勧め致します。
- ③飲み忘れた場合は、気がついた時にできるだけ早く
飲んで下さい。ただし、飲むべき時間から半日以上
経過していたら、1回分を飛ばし、次から決められ
た量を飲んで下さい。
絶対に2回分を一度に飲んではいけません。

- ④間違えて多く服用してしまった時は、
すぐに主治医・薬剤師に連絡して下さい。

※ INR

(International Normalized Ratio : 国際標準比) とは

INR 検査とは、血液の固まりやすさをみる検査です。
70 歳未満の方は、INR の値を 2.0 ~ 3.0、70 歳
以上の方は、INR の値を 1.6 ~ 2.6 の範囲に入る
ようにワルファリンカリウム錠の量を調節します。
この範囲に入っていれば、血栓がおきにくく、出血
もおきにくいこととなります。

●70 歳未満 INR2.0 ~ 3.0

●70 歳以上 INR1.6 ~ 2.6

2. 次のような時は必ず事前に主治医に相談して下さい。

- ① 手術や抜歯をする時
- ② 他の薬剤を服用したり、止めたりする時
- ③ アスピリンなどの解熱・鎮痛剤や風邪薬などの一般用医薬品を薬局で買って飲む時

3. 日常生活での注意

- ① ケガをしないように注意して下さい。
- ② 偏った食事を避け、体調管理に注意して下さい。
例えば極端に多い又は少ない食事をしたり、毎日の飲酒や一度に沢山の飲酒をしないで下さい。
- ③ ワルファリンカリウム錠はビタミンKによって効果が弱まります。納豆、クロレラ、青汁はビタミンKを多く含むので食べないで下さい。
- ④ 緑黄色野菜や海草類もビタミン K を比較的多く含みます。一度に大量に摂取することは避けて下さい。ただし、全く摂取しないのは栄養上良くありません。毎日一定量を食べるようにして下さい。

- ⑤ 歯ぐきの出血、皮下出血、原因不明の出血、血尿、血便など、異常を感じたらすぐに主治医の診察を受けて下さい。
- ⑥ 本剤服用中は妊娠しないように注意して下さい。妊娠を希望する時は主治医に相談して下さい。

4. 薬剤保管上の注意

- ① 光にあてないようにし、湿気を避けて保存して下さい。
- ② 子供の手の届かないところに保管して下さい。

5. 他院・他科を受診する時

- ① 他の医師や歯科医師の診察を受ける時、不慮の事故等で受診する時にも、必ず本剤を服用していることを医師、歯科医師、薬剤師に伝えて下さい。

これらの注意を家族やまわりの方に知らせて協力を得ることもよい方法です。

ワルファリンカリウム錠と併用してはいけない薬剤

以下に示す薬剤は、ワルファリンカリウム錠の効果を増強又は減弱します。

ワルファリン治療が必要な方で以下に示す薬剤を処方されている方は、その薬剤を飲むのをやめ、至急医師・薬剤師に相談して下さい。

●作用を増強するため併用してはいけない薬剤

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|----------------------------|------------------------|---------------------------|
| 抗リウマチ剤 | イグラチモド | ケアラム |
| 口腔・食道カンジダ症治療剤 深在性真菌症治療剤 | ミコナゾール (ゲル剤・注射剤・錠剤) | フロリードゲル経口用・F 注、オラビ錠口腔用 |

●作用を減弱するため併用してはいけない薬剤

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|-----------------------------------|--------|--------|
| 骨粗鬆症治療薬 ビタミンK ₂ 治療剤 | メナテレノン | グラケー、他 |

ワルファリンカリウム錠の抗凝血作用に影響するおそれのある薬剤

他の薬剤との相互作用は、可能な全ての組合せについて検討されているわけではありません。

抗凝血薬療法施行中に新たに他剤を併用したり、休薬する場合には、医師・薬剤師に相談して下さい。

●作用を増強する薬剤・飲食物

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|---------|---|--|
| 催眠鎮静剤 | 抱水クロラール トリクロホスナトリウム | エスケレ トリクロリール |
| 抗てんかん剤 | フェニトイン ※ ホスフェニトインナトリウム水和物 ※ エトイン ※ バルプロ酸ナトリウム | アレビアチン、他 ホストイン アクセノン デバケン、他 |
| 解熱鎮痛消炎剤 | アセトアミノフェン セレコキシブ トラマドール塩酸塩 ブコローム メロキシカム ロルノキシカム アスピリン ※ イブプロフェン インドメタシン インドメタシン ファルネシル | アンヒバ、他 セレコックス、他 トラマール、他 パラミチン モービック、他 ロルカム、他 アスピリン、他 フルフェン、他 インダシ、インテバン、他 インフリー |

※複数のカラムに掲載されていますので注意して下さい。

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|---------|---|-------------------|
| 解熱鎮痛消炎剤 | エトドラク | オステラック、他 |
| | ケトプロフェン | カピステン、他 |
| | サリチル酸類 | アスピリン、他 |
| | ジクロフェナクナトリウム | ボルタレン、他 |
| | スリンダク | クリノリル、他 |
| | ナブメトン | レリフェン |
| | ナプロキセチン | ナイキサン |
| | ピロキシカム | バキソ、他 |
| | フルルビプロフェン | フロベン、他 |
| | メフェナム酸 | ボンタール、他 |
| | ロキソプロフェンナトリウム水和物 等 | ロキソニン、他 |
| 精神神経用剤 | メチルフェニデート塩酸塩 | リタリン、コンサータ |
| | 三環系抗うつ剤 アミトリプチリン塩酸塩 等 | トリプタノール、他 |
| | 選択的セロトニン 再取り込み阻害剤 (SSRI) パロキセチン塩酸塩水和物 フルボキサミン塩酸塩 等 | パキシル、他 ルボックス、他 |
| | セロトニン・ノルアドレナリン 再取り込み阻害剤 (SNRI) デュロキセチン塩酸塩 等 | サインバルタ、他 |
| | モノアミン酸化酵素阻害剤 | エフピー |
| 不整脈用剤 | アミオダロン塩酸塩 | アンカロン、他 |
| | プロパフェノン塩酸塩 | プロノン、他 |
| | キニジン硫酸塩水和物 | |

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|---------|-----------------------------|-----------------------|
| 高脂血症用剤 | シンバスタチン | リボバス、他 |
| | フルバスタチンナトリウム | ローコール、他 |
| | ロスバスタチンカルシウム | クレストール、他 |
| 消化性潰瘍用剤 | オメプラゾール | オメプラール、オメプラゾ、他 |
| | シメチジン | タガメット、他 |
| | ホルモン剤 | 副腎皮質ホルモン プレドニゾン等 ※ |
| ホルモン剤 | 甲状腺製剤 レボチロキシンナトリウム水和物等 ※ | チラーチン S、他 |
| | 抗甲状腺製剤 チアマゾール等 ※ | メルカゾール、他 |
| | グルカゴン | グルカゴン G ノボ、他 |
| | 蛋白同化ステロイド メテロン酢酸エステル等 | プリモボラン、他 |
| | ダナゾール | ボンゾール |
| | 男性ホルモン メチルテストステロン等 | エナルモン、他 |

※複数のカラムに掲載されていますので注意して下さい。

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|------|--|--|
| 痔疾用剤 | トリベノシド トリベノシド・リドカイン | ヘモクロン ボラザG |
| 抗血栓剤 | 血液凝固阻止剤 ヘパリンナトリウム ヘパリンカルシウム 低分子量ヘパリン (ダルテパリンナトリウム等) ヘパリノイド (ダナバロイドナトリウム) Xa 阻害剤 (フォンダパリヌクスナトリウム) (エドキサバントシル酸塩水和物) (リバーロキサバン) (アピキサバン) 抗トロンピン製剤 (アルガトロバン水和物) (ダビガトランエテキシ ラートメタンスルホン酸塩) | ヘパリン Na、他 ヘパリンカルシウム、他 フラグミン、他 オルガラン アリクストラ リクシアナ イグザレルト エリキュース バスタン、スロンノン、他 プラザキサ |
| | 血小板凝集抑制作用を有する薬剤 アスピリン ※ イコサペント酸エチル オザグレネルナトリウム | アスピリン、他 エパデール、他 キサンボン、カタクロット、他 |

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|----------|---|---|
| 抗血栓剤 | クロピドグレル硫酸塩 サルボグレラート塩酸塩 シロスタゾール チカグレロル チクロピジン塩酸塩 プラスグレレル塩酸塩 ペラプロストナトリウム リマプロストアルファテクス 等 | ブラビックス、他 アンブラーグ、他 プレタール、他 プリリント パナルジン、他 エフィエント ドルナー、プロサイリン、 ペラサス LA、他 オバルモン、プロレナル、他 |
| | 血栓溶解剤 ウロキナーゼ アルテプララーゼ モンテプララーゼ 等 | ウロナーゼ アクチバシン、グルトバ クリアクター |
| | アンチトロンピン製剤 | アコアラン |
| | 乾燥濃縮人活性化プロテインC | アナクト C |
| | トロンボモデュリン アルファ | リコモジュリン |
| | バトロキシピン | デフィブラーゼ |
| | 痛風治療剤 | アロプリノール |
| プロベネシド | | ベネシッド |
| ベンズプロマロン | | ユリノーム、他 |
| 酵素製剤 | プロナーゼ プロメライン | ガスチーム、他 ヘモナーゼ、他 |
| 糖尿病用剤 | スルホニル尿素系 糖尿病用剤 ※ グリベンクラミド ※ グリメピリド ※ | オイグルコン、他 アマリール、他 |

※複数のカラムに掲載されていますので注意して下さい。

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|---------|--|--|
| 糖尿病用剤 | クロルプロバミド ※ トルブタミド ※ 等 | クロルプロバミド |
| 抗リウマチ剤 | レフルノミド | アラバ |
| 抗腫瘍剤 | アザチオプリン ※ メルカプトプリン ※ | イムラン、アザニン ロイケリン |
| | タモキシフェンクエン酸塩 トレミフェンクエン酸塩 | ノルバデックス、他 フェアストーン、他 |
| | ゲフィチニブ | イレツサ、他 |
| | エルロチニブ塩酸塩 | タルセバ |
| | フルタミド | オダイン、他 |
| | フルオロウラシル系製剤 及びその配合剤 カベシタピン フルオロウラシル テガフル テガフル・ギメラシル・ オテラシルカリウム※等 | ゼローダ、他 5-FU、他 フトラフル ティーエスワン、他 |
| | イマチニブメシル酸塩 | グリベック、他 |
| アレルギー用薬 | トラニラスト | リザベン、他 |
| | オザゲレル塩酸塩水和物 | ドメナン、他 |

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|--------|--|--|
| 抗生物質製剤 | アミノグリコシド系 | ストレプトマイシン、 カナマイシン、他 |
| | クロラムフェニコール系 | クロロマイセチン、他 |
| | セフェム系 | セフゾン、他 |
| | テトラサイクリン系 | アクロマイシン、他 |
| | ペニシリン系 | アモキシシリン、 ピクシリン、他 |
| | マクロライド系 エリスロマイシン クラリスロマイシン ロキシスロマイシン アジスロマイシン 等 | エリスロシン、他 クラリッド、クラリス、他 ルリッド、他 ジスロマック、他 |
| 抗結核剤 | アミノサリチル酸類 パラミノサリチル酸カルシウム水和物等 | アルミノニツバスカルシウム |
| | イソニアジド | イスコチン、他 |
| 化学療法剤 | キノロン系抗菌剤 オフロキサシン シプロフロキサシン ノルフロキサシン レボフロキサシン水和物等 | タリピッド、他 シプロキサシン、他 バクシダール、他 クラビット、他 |

※複数のカラムに掲載されていますので注意して下さい。

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|---------|---|--|
| 化学療法剤 | サルファ剤及びその配合剤 スルファメトキサゾール・ トリメトプリム サラゾスルファピリジン等 | バクタ、バクトラミン、他 アザルフィジン、他 |
| 抗真菌剤 | アゾール系抗真菌剤 イトラコナゾール フルコナゾール ホスフルコナゾール ポリコナゾール ミコナゾール硝酸塩 (膈坐剤・クリーム剤)等 | イトリゾール、他 ジフルカン、他 プロジフ ブイフェンド、他 フロリード、他 |
| 抗 HIV 薬 | ホスアンプレナビル カルシウム水和物 | レクシヴァ |
| | アタザナビル硫酸塩 | レイアタッツ |
| 抗原虫剤 | メトロニダゾール | フラジール、他 |
| その他の医薬品 | インターフェロン | スミフェロン、他 |
| | ジスルフィラム | ノックピン |
| | イプリフラボン | オステン、他 |
| 飲食物 | アルコール ※ | |

●作用を減弱する薬剤・飲食物

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|--------|---|---|
| 催眠鎮静剤 | バルビツール酸系及び チオバルビツール酸系薬剤 フェノバルビタール等 | ノーベルバル、 フェノバル、他 |
| 抗てんかん剤 | カルバマゼピン プリミドン フェニトイン ※ ホスフェニトインナトリウム水和物 ※ | テグレートール、他 プリミドン アレビアチン、他 ホストイン |
| 精神神経用剤 | トラゾドン塩酸塩 | レスリン、テジレル、他 |
| 高脂血症用剤 | コレステラミン | クエストラン |
| 鎮吐剤 | アプレピタント ホスアプレピタントメグルミン | イメンド、他 プロイメンド |
| ホルモン剤 | 副腎皮質ホルモン プレドニゾン等 ※ | プレドニン、 ソル・メドロール、他 |
| ビタミン剤 | ビタミンK 及び ビタミンK含有製剤 フィトナジオン：ビタミンK ₁ メナテトロン：ビタミンK ₂ 経腸栄養剤 高カロリー輸液用 総合ビタミン剤等 | ケーワン、カチーフN、 オファルムK、他 グラケー、ケイツー、他 エレンタール、他 フルカリック、ハイカリック、他 |

※複数のカラムに掲載されていますので注意して下さい。

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|---------|--|--------------------|
| 抗腫瘍剤 | アザチオプリン ※ メルカプトプリン ※ | イムラン、アザニン ロイケリン |
| 抗結核剤 | リファンピシン | リファジン、他 |
| その他の医薬品 | ボセンタン水和物 納豆菌含有製剤 | トラクリア、他 |
| 飲食物 | アルコール ※ | |
| | セイヨウオトギリソウ (St.John's Wort, セント・ジョーンズ・ワート) 含有食品 | |
| | ビタミンK含有食品 納豆、クロレラ食品、青汁 上記以外のビタミンK 含有食品 | |

●本剤の作用減弱・増強以外の相互作用をきたすおそれのあるもの

| 薬効分類 | 薬剤名 | 商品名 |
|---------|---|---------------------------------|
| 抗てんかん剤 | フェニトイン ※ ホスフェニトインナトリウム水和物 ※ エトトイン ※ | アレピアチン、他 ホストイン アクセノン |
| ホルモン剤 | 甲状腺製剤 レボチロキシンナトリウム 水和物 ※ 等 | チラーチン S、他 |
| | 抗甲状腺製剤 チアマゾール ※ 等 | メルカゾール |
| 糖尿病用剤 | スルホニル尿素系糖尿病用剤 ※ グリベンクラミド ※ グリメピリド ※ クロルプロバミド ※ トルブタミド ※ 等 | オイグルコン、他 アマリール、他 クロルプロバミド |
| 抗 HIV 薬 | ネビラピン | ピラミューン |
| | リトナビル ロピナビル・リトナビル配合剤 | ノーピア カレトラ |
| その他の医薬品 | レカネマブ (遺伝子組換え) | レケンビ |

※複数のカラムに掲載されていますので注意して下さい。

診察にあたられる医師への参考事項

生殖能を有する者への投与

- ・妊娠する可能性のある女性に投与する場合には、事前に本剤による催奇形性、胎児の出血傾向に伴う死亡、分娩時の母体の異常出血の危険性について十分説明すること。

妊婦への投与

- ・妊婦又は妊娠している可能性のある女性には投与しないこと。本剤は胎盤を通過し、点状軟骨異栄養症等の軟骨形成不全、神経系の異常、胎児の出血傾向に伴う死亡の報告がある。また、分娩時に母体の異常出血があらわれることがある。

授乳婦への投与

- ・本剤投与中の授乳婦には授乳を避けさせること。ヒト母乳中に移行し、新生児に予期しない出血があらわれることがある。

小児等への投与

- ・小児に本剤を使用する場合、小児の抗凝固薬療法に精通した医師が監督すること。
- ・新生児には、有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。ビタミンK欠乏時の新生児に投与した場合、本剤の作用が増強されるおそれがある。新生児を対象とした臨床試験は実施していない。

高齢者への投与

- ・用量に注意し慎重に投与すること。本剤は、血漿アルブミンとの結合率が高く、高齢者では血漿アルブミンが減少していることが多いため、遊離の薬物の血中濃度が高くなるおそれがある。

